

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 2007年9月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4079500122		
法人名	有限会社 亀ハウス		
事業所名	グループホーム 亀ハウス		
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡糸田町3122番地3 (電話)0947-26-3434		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27		
訪問調査日	平成19年9月7日	評価確定日	平成19年10月3日

【情報提供票より】(平成19年7月11日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14人	常勤 8人, 非常勤 6人, 常勤換算	11人

(2)建物概要

建物形態	併設(単独)	築5年
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建て	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	860 円	

(4)利用者の概要(7月11日現在)

利用者人数	16名	男性 3名	女性 13名
要介護1	4名	要介護2	4名
要介護3	5名	要介護4	2名
要介護5	1名	要支援2	名
年齢	平均 83歳	最低 75歳	最高 93歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	糸田町立緑ヶ丘病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

整備された町役場跡地の前に、住宅地に囲まれたグループホーム亀ハウスがある。通りは近くの小学校の通学路で、賑やかな子供達の声が聞こえ、公民館跡地の公園は、利用者の散歩コースになっている。季節の花が咲き揃う玄関前から中に入ると、自由にのんびりと過ごす利用者が塗り絵や、職員と料理の下拵えを楽しみながら手伝っている。「人生の先輩から生きる知恵を学び」「やすらぎのある生活を大切に」「楽しみ、悩み、喜びを分かち合い」「地域との関わりを深めていく」という理念のもと、施設長、管理者は質の高い職員と話し合い、地域に根付き、信頼され、利用者が自分の家として、穏やかに、安心して暮らせるように日々努力し、邁進している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回、改善点は18件あったが管理者と職員が、この一年間一丸となって努力し、10件が改善されている。「地域との付き合い」「権利擁護や成年後見制度の理解と活用」「チームで作る利用者本位の介護計画」「重度化や終末期に向けた方針の共有」「日々その人らしい暮らし」「災害対策」「居心地のよい空間作り」などが今後の課題である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は定期的に開催する勉強会で職員が話し合っ作成し、管理者がまとめ、改善に向けた取組みをしている。今後は職員一人ひとりが自己評価を作成し、サービスの質の向上に繋げていくことが望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 利用者、家族、地域区長、民生委員、管理者、職員などで結成した運営推進会議は会を重ねることに充実した内容になっている。今後は運営推進会議を活用し、地域住民や利用者、家族が交流し、信頼関係が深まること望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の意見、要望を聞く体制はあるが、ほとんど出ないので、運営の反映に繋がらない。家族会を中心に悩み事、相談事が言いやすい雰囲気づくりが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム前の整備された町舎跡地はいつでも使用できる。また、亀ハウス祭りの開催や小学生の職場体験、地域の行事や奉仕活動などに参加し、少しずつ、知名度も上がり、地域に根付き始めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	日常生活の中で、利用者一人ひとりのサービスのあり方を話し合い、地域の中でその人らしく暮らしていける理念を作っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎朝、理念を唱和し、実践に向けて努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者と職員は町主催の行事や敬老会などに地域の一人として参加し、地域住民と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は定期的に行う勉強会で自己評価について話し合い、管理者がまとめて作成している。		自己評価の一連の過程を通じて、サービスの質の確保、向上につなげるためにも、職員一人ひとりが自己評価を作成し、管理者がまとめ、活用していくことが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月毎に開催し、利用者、家族、区長、民生委員、町職員、管理者、職員が参加し、双方向的会議になるように工夫している。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に町職員に参加してもらい、ホームの実情、課題など相談し、町からも情報を提供してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在該当者がいないので利用者、家族には管理者が入居時に説明している。		県や市町村などが開催する「日常生活自立支援事業」や「成年後見制度」の研修会に参加し、理解して利用者や家族に、いつでも説明出来るようにしていくことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月苑便りを作成し、家族に利用者の近況や記念写真などと一緒に送付している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時に職員が運営に関することや心配事の相談を受けている。		目立たないところに意見箱を設置したり、来訪の少ない家族には管理者や職員が積極的に連絡を取り、コミュニケーションを図り、意見が言いやすい雰囲気を作ることが望まれる。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職や異動は少ない。管理者は利用者や職員が、馴染みの関係で過ごせるように工夫している。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の採用は年齢、性別の制限はしていない。職員は、生き生きと働きやすい職場で、勤務が出来るように配慮されている。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	毎月の勉強会で取り組んでいる。利用者の尊厳を大切に、愛情のある介助が、出来るように心掛けている。		
5. 人材の育成と支援					
13	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員採用時は母体法人で研修を受け、内外の研修会も交代で受講している。職場では働きながら学べる環境がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者とグループホーム連絡会を作り、情報交換し、交流を図っている。</p>		
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
15	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験入居などで入居希望者や家族が、利用者、職員と馴染みながら、納得して入居できる体制がある。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>					
16	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者と職員は家族として、一緒に支えあい、心配したり、されたりの関係で、職員は利用者一人ひとりが、安心して暮らせるように努力している。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
17	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は思いや意向が表出できる利用者からは、時間をかけて把握し、表出できない利用者は、家族や職員で相談したり、生活暦を見直したりしている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
18	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は職員(パートも含む)で協議し、利用者の意向を反映し、作成している。</p>		<p>家族とコミュニケーションをとりながら意見、苦情が言いやすい雰囲気や体制を作ることが望まれる。</p>
19	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎に介護計画を見直している。利用者の状態変化や必要に応じて臨機応変に見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の要望に応じて柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理者は利用者や家族と相談し、納得してもらって、かかりつけ医を決めている。また、24時間対応できる体制を医療機関と提携し、緊急事態に備えている。		
22	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、医療機関、施設長、母体法人(特別養護老人ホーム)と十分話し合いを設けて、備えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの尊厳を大切に、言葉かけ、対応などに気をつけている。		
24	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々利用者のペースに合わせていけるように努めている。		職員のペースではなく、利用者一人ひとりのその日の意向や状態を大切に、支援していくことが望まれる。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と一緒に食事の準備をし、同じテーブルで、さりげない介助をしながら食事を楽しんでいる。		
26	57	入浴を楽しむことが出来る支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望を聞き実施しているが、希望の表出が少なく、いつでも自由に入浴できる体制ではない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの身体機能の状態や意向を尊重し、役割を分担し、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
28	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、ドライブなど利用者一人ひとりの希望に沿った支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけていない。スタッフが目の届かないときはやむを得ず鍵をかけることがある。		
30	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は全員、消火器のある場所と使用方法を把握している。出入り口が玄関の一ヶ所しかなく、避難訓練を日ごろから実施し、避難経路や手順など熟知しておかないといざという時に大変である。		消防署の指導で、夜間を想定した避難訓練を地域の住民の協力と参加を得て、実施することが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量をチェックし、記録している。管理栄養士にカロリー計算を定期的にしてもらう準備をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
居心地のよい共用空間づくり					
32	81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間部分が狭いので居心地よくする工夫が大変であるが、音や光をコントロールし、職員が手作りで生活感や季節感を工夫して、利用者が穏やかに暮らせるよう配慮している。		
33	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は仏壇や、孫の写真、なじみの物を持ち込み、利用者が、少しでも居心地良く暮らせるよう努力している。		